

カキノヘタムシガ（ヘタムシ）の重要防除時期となります。  
芽を食害したあと果実に食入するので、芽の食害痕が散見された場合は直ちに防除をしましょう。

芽・果柄・ヘタに薬液がかかるよう丁寧に散布しましょう。

## 病害虫防除

隣接園（特に収穫期の作物）に飛散しないように注意してください

### ① 8月中旬の散布（8月11日～15日頃）

		散布日	月	日
散布薬剤	水	100ℓ		
	展着剤	10ml		
	ダントツ水溶剤	50g		(収穫7日前、3回以内)
	トップジンM水和剤	100g		(収穫前日、6回以内)
対象病害虫	落葉病、炭疽病、うどんこ病、アザミウマ類、コナカイガラムシ類、カキノヘタムシガ、カメムシ類			
散布量	10a当り 500ℓ *若木の場合、樹体にしっかり散布できる量を散布する			

\*アメリカシロヒトリの発生園は、アディオン水和剤3,000倍(7日前、5回)を加用する。

### ●今後の管理について

\*摘果・・・まだ摘果が終了していない園地は、至急実施しましょう。

\*雑草管理・・・主幹害虫対策として、根元は常にきれいにしておく。

バスタ液剤（収穫前日まで、3回以内）

10a当り 水100～150ℓ、バスタ液剤500ml

\*乾燥防止・・・敷き草や敷きワラ、かん水を実施しましょう。

（敷きワラは、根元50cm空けて厚く敷く）

農薬(毒物・劇物)をお買い求めの際には、印鑑をご持参ください。